びわの寒害対策　全　域

びわは、開花～幼果期が厳冬期と重なるため寒害を受けやすく、幼果が－3℃に 3 時間以上遭遇すると種子が凍結し、幼果凍死率が高まるため、生産量に影響を及ぼします。被害を最小限にするために、日頃から樹勢を保ち着葉数を確保し、肥培管理や防除を適正に行うことが重要です。特に寒害を受けやすい園では、以下の対策に取り組みましょう。なお、長崎半島では寒害防止対策として補助事業を活用した簡易ハウスの導入を推進しています。詳しくは県央振興局までお尋ね下さい。

寒害を受けやすい園の管理

10～11 月

上部 1/2 摘蕾

- 実施時期：10 月上中旬
- 遅花利用による生産確保のため、果房進度が 2～3 頃に花房上部半分を除去
- 寒害を受けやすい外周部の 1 割程の結果枝で行う。

寒 肥

- 実施時期：10 月下旬
- 樹勢維持のため、速効性肥料を施用（年間窒素量約 20%）

12 月～3 月

摘 房 ・ 摘 蕾

- 秋冬季は摘房を控え、春季主体に摘房を行う。
- 秋冬季に摘房する花房
  極端な早花
  病害虫の被害をうけたもの。
  充実不足のもの。
- 寒害の恐れがなくなった春季に結果枝数の 60～70%に摘房する。
- 摘蕾は普通摘蕾とする。

寒害を受けた場合

- そのままの状態で果実の状態を観察し、被害果の判定ができるようになってから正常果を残し、4月上中旬に被害果をせん除する。
  （早期にせん除すると翌年産の開花が早くなる可能性があるため注意）
- 寒害後に開花し幼果となった果実、寒害を免れた果実は、通常どおり袋掛けし、生産量を確保する。
- 寒害を免れた果実の生果率向上のため、残った花の開花期に殺菌剤を散布する。

※防風垣の刈り込みにより園内の冷気停滞を防ぎ通風をよくする。

【スマート農業】ラジコン草刈機の導入　西海事務所

西海市の樹園地（みかん）における基盤整備事業実施地区（白崎地区・小迎南風崎地区）2 地区共同で、「ながさき農業デジタル化促進事業」を活用して、軽トラックでも移動運搬が可能なラジコン草刈機が導入されました。導入機種は、昨年・一昨年に実施した現地実演会の結果を踏まえて、株式会社ＩＨＩ（アイエイチアイ）アグリテック製の SH950RC としました。

2 地区では、基盤整備後の法面の勾配が 30 ～ 40 度であり、整備圃場面積の約 22%を法面が占めるため、法面の除草管理作業には大きな労力を伴い、作業者の安全面でも課題があります。本機械の導入により、作業者の傾斜地における除草作業の安全性確保と大幅な労力削減が期待されます。

納品時には、メーカー技術者による操縦やメンテナンス方法に関する簡単な講習も行われ、今後実際の作業を行う生産者の方々も操縦を実施されました。

生産者による試験運転

メーカーによるメンテナンス説明